

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京医療秘書福祉専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
介護福祉専門課程	介護福祉科	夜・通信	60 単位	6 単位	
商業実務専門課程	医療事務科	夜・通信	33 単位	3 単位	
	医療秘書科	夜・通信	98 単位	6 単位	
	医療AI科	夜・通信	52 単位	6 単位	
	医療保育科	夜・通信	116 単位	9 単位	
	診療情報管理士科	夜・通信	112 単位	9 単位	
	くすりアドバイザー科	夜・通信	68 単位	6 単位	
歯科助手専門課程	歯科アシスタント科	夜・通信	25 単位	3 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」を広く一般の方が立ち入ることが出来る職員室受付カウンターに設置し公開している。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京医療秘書福祉専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R2.4.1 ~ R6.3.31	法務
非常勤	公認会計士	R2.4.1 ~ R6.3.31	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京医療秘書福祉専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。</p> <p>原則として法人統一の様式を使用し、客観的に分かりやすい「授業計画」「到達目標」「成績評価基準」を作成・公表している。</p> <p>公表はインターネットによる他、授業内で当該生徒へ説明する。また、習熟度等に応じて授業計画が変更される場合は、都度説明を行うものとする。(公表の時期は毎年度4月を目途とする)</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。</p> <p>科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。</p> <p>なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 全履修科目の評定(5点法で示されたもの)の和を科目数で除したものを「評定平均」とし、年に2回(期末ごとに)一覧管理を行うことで、成績の分布状況を把握する。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/docs/schoolinfo.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。 なお、卒業を認める者については課程において設定した目指すべき人材像を満たすことを求める。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/docs/schoolinfo.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東京医療秘書福祉専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/zaimu.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/zaimu.pdf
財産目録	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
事業報告書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		介護福祉 専門課程	介護福祉科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位	43 単位	13 単位	14 単位	70 単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		15人	0人	2人	5人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。

<p><目指すべき人材像> 生活歴や価値観が異なる相手の立場に立って共感でき、円滑なコミュニケーション力を持ち合わせた思いやりのある介護福祉士 生活の連続性を捉え、科学的な分析を以て、尊厳のある暮らしと自立を支えることができる介護福祉士 多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解し、リーダーシップをとることができる介護福祉士 人権擁護の視点、職業倫理を身に付けた介護福祉士</p>
<p>学修支援等 (概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリಂಗループの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	10人 (66.7%)	5人 (33.3%)
(主な就職、業界等) 高齢者福祉施設、障害者支援施設、グループホーム、有料老人ホーム等			
(就職指導内容) 面接練習、添削指導、企業説明会実施等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 介護福祉士、普通救命講習、専門士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	3人	11.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、心神耗弱		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談（または保護者面談）の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	医療事務科 (単位制)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	31 単位	28 単位	13 単位	単位	単位	単位
			41 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		16人	0人	6人	3人	9人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。 <目指すべき人材像> 医療従事者として、受付対応、レセプト業務等ができる知識を有する。 病院・クリニックにおいてチーム医療の一員としての自覚を持ち、即戦力となる。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	16人 (88.9%)	2人 (11.1%)

(主な就職、業界等) 大学病院、総合病院、診療所などの医療機関
(就職指導内容) 面接練習、添削指導、企業説明会実施等
(主な学修成果（資格・検定等）) 医療事務検定、サービス接遇検定、硬筆書写技能検定、普通救命講習
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	2人	10.5%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、精神疾患等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談（または保護者面談）の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務関係		商業実務 専門課程	医療秘書科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位	78 単位	36 単位	4 単位		
			118 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		91人	0人	10人	18人	28人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。 <目指すべき人材像> 医療従事者として、受付対応、レセプト業務、看護補助、医師事務作業補助者等ができる知識を有する。 病院・クリニックにおいてチーム医療の一員としての自覚を持ち、即戦力となる。	
学修支援等	
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。	

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
59人 (100%)	0人 (0%)	55人 (93.2%)	4人 (6.8%)

(主な就職、業界等) 大学病院、総合病院、診療所などの医療機関
(就職指導内容) 面接練習、添削指導、企業説明会実施等
(主な学修成果(資格・検定等)) 医療秘書技能検定、秘書技能検定、医療事務検定、サービス接遇検定、 硬筆書写技能検定、パソコン検定、専門士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116人	10人	8.6%
(中途退学の主な理由) 身体疾患、経済的理由、人間関係、家庭の事情、目標喪失等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談(または保護者面談)の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務関係	商業実務 専門課程	医療 AI 科 (単位制)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	6 2 単位	44 単位	33 単位	4 単位	単位	単位
			81 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	24 人	0 人	5 人	6 人	11 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。
<目指すべき人材像> 医療従事者として、受付対応、レセプト業務等ができる知識を有する。 IT パスポート・情報セキュリティマネジメントの国家資格を保持し、医療現場で活かせる ICT に関する知識を有する。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (87.5%)	1 人 (12.5%)

(主な就職、業界等) 総合病院、診療所、などの医療機関
(就職指導内容) 面接練習、添削指導、企業説明会実施等
(主な学修成果(資格・検定等)) 医療秘書技能検定、医療事務検定、サービス接客検定、調剤薬局事務検定 ITパスポート、チャイルドボディセラピスト、秘書検定、専門士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	4人	12.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、目標喪失、身体疾患等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談(または保護者面談)の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務関係	商業実務 専門課程	医療保育科 (単位制)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	93 単位	105 単位	12 単位	12 単位	単位	14 単位
			143 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	65人	0人	3人	16人	19人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。
<目指すべき人材像> 保育士・幼稚園教諭の国家資格を保持し、且つ医療の専門的な知識を有し、保育・医療の現場において即戦力となる。 子ども保護者、同僚などの他者や社会と良好な関係を築く力を有し、的確なコミュニケーションを図ることができる。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 保育所、幼稚園、医療機関
(就職指導内容) 面接練習、添削指導、企業説明会実施等
(主な学修成果(資格・検定等)) 保育士、幼稚園教諭2種、硬筆書写技能検定、普通救命講習、専門士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
69人	12人	17.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、心神耗弱、目標喪失、人間関係、精神疾患等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談(または保護者面談)の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務関係	商業実務 専門課程	診療情報管理士科 (単位制)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	93 単位	65 単位	52 単位	3 単位	単位	単位
			120 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	56人	0人	9人	11人	20人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。
<目指すべき人材像> 診療情報管理士認定資格を保持し、診療情報管理士としての基本的な知識と、情報活用に必要な高度なパソコンスキルを有する。 高いホスピタリティ・コミュニケーション力を有する。 チーム医療の中心的役割、及び、病院経営に貢献できる経営に関する知識を有する。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	0人 (0%)	23人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 大学病院、総合病院、診療所などの医療機関
(就職指導内容) 面接練習、添削指導、企業説明会実施等
(主な学修成果(資格・検定等)) 医療秘書技能検定、秘書技能検定、医療事務検定、サービス接客検定、 硬筆書写技能検定、パソコン検定、普通救命講習、専門士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
73人	7人	9.6%
(中途退学の主な理由) 目標喪失、心神耗弱、進路変更、経済的困難等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談(または保護者面談)の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務関係	商業実務 専門課程	くすりアドバイザー科 (単位制)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	6.2 単位	67 単位	12 単位	9 単位	単位	単位
			88 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	37人	0人	3人	5人	8人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。
<目指すべき人材像> 登録販売者資格を取得し、ドラッグストア・薬局・薬店等、薬業界において、即戦力としてお客様・患者様対応が出来る知識・技術を有する。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	15人 (93.8%)	1人 (6.3%)
(主な就職、業界等) ドラッグストア、化粧品メーカー等			

(就職指導内容) 面接練習、添削指導、企業説明会実施等
(主な学修成果(資格・検定等)) パソコン技能検定、サービス接遇検定、調剤報酬請求事務技能検定、 普通救命講習、専門士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	1人	2.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談(または保護者面談)の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務関係		歯科助手 専門課程	歯科アシスタント科 (単位制)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	31 単位	20 単位	8 単位	3 単位	8 単位	
			39 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		10人	0人	1人	4人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。	
<目指すべき人材像> 歯科助手、歯科医療事務の知識・技術を活かし、お客様・患者様の対応ができる。 歯科医院においてチーム医療の一員としての自覚を持ち、即戦力となる。	
学修支援等	
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。	

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	3人 (60.0%)	2人 (40.0%)
(主な就職、業界等) 歯科医院			

(就職指導内容) 面接練習、履歴書等添削指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 歯科助手検定、歯科医療事務検定、普通救命講習
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	2人	28.6%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、心神耗弱		
(中退防止・中退者支援のための取組) 複数の教員でサポートをする担当教員制をとり、心身の健康問題、学校生活上の諸問題について早期発見・対応できるよう、日々個人面談等を実施している。必要に応じて適宜保護者とも共有を図り、三者面談(または保護者面談)の実施など連携体制を整えている。担当教員での解決が難しい場合には、その他の教員や役職者に相談の上、面談を実施している。 また希望者に対してはスクールカウンセリングを行えるよう、カウンセラーを配置している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
介護福祉科	100,000 円	740,000 円	391,660 円	
医療事務科	100,000 円	740,000 円	252,308 円	
医療秘書科	100,000 円	740,000 円	234,718 円	
医療 AI 科	100,000 円	740,000 円	249,567 円	
医療保育科	100,000 円	700,000 円	246,300 円	
診療情報管理士科	100,000 円	740,000 円	233,995 円	
くすりアドバイザー科	100,000 円	740,000 円	220,240 円	
歯科アシスタント科	100,000 円	740,000 円	288,070 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。 学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療機関 (病院) 経営企画課課長	2021 年 4 月 1 日より 2023 年 3 月 31 日まで	関連企業
医療機関 (病院) 事務長 / 全国医事研究会 理事	2021 年 4 月 1 日より 2023 年 3 月 31 日まで	関連企業
医療機関 (病院) 医事外来業務課 兼 医事入院業務課課長	2021 年 4 月 1 日より 2023 年 3 月 31 日まで	関連企業

教育機関（大学） 社会福祉学科教授	2021年4月1日より 2023年3月31日まで	関連企業
社会福祉法人 理事	2021年4月1日より 2023年3月31日まで	関連企業
医療機関（病院） 健診センター運営部 副部長	2021年4月1日より 2023年3月31日まで	関連企業
医療機関（病院） 医師事務作業支援室	2021年4月1日より 2023年3月31日まで	卒業生
在校生保護者	2021年4月1日より 2023年3月31日まで	在校生保護者
教育機関（高校）	2021年4月1日より 2023年3月31日まで	教育機関
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/kankeisya/tokyo-med.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/tokyo-med/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	東京医療秘書福祉専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		47人	46人	52人
内 訳	第Ⅰ区分	31人	28人	
	第Ⅱ区分	-人	12人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				52人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	-人	0人	0人
(備考) 「右以外の大学等」欄には 修業年限3年以上の学科の人数を、「短期大学 修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。 高等専門学校 認定専攻科を含む。 及び 専門学校 修業年限が2年以下のものに限る。」欄には 修業年限2年以下の学科の人数を、それぞれ記入。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給
付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより
認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	-人	-人	-人
計	-人	-人	-人
<p>(備考) 「右以外の大学等」欄には 修業年限3年以上の学科の人数を、「短期大学 修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。 高等専門学校 認定専攻科を含む。 及び専門学校 修業年限が2年以下のものに限る。」欄には 修業年限2年以下の学科の人数を、それぞれ記入。</p>			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。